

平成23年度
一般1期入学試験問題

国語

2月1日(11:10~12:10)

注意事項

1. 問題用紙は、試験監督者の指示があるまで開かないこと。
2. 問題用紙と解答用紙(マークシート)は別になっています。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。

① 氏名欄

氏名及びフリガナを記入しなさい。

② 受験番号欄

受験番号(数字及び英字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。

③ 試験種別欄

一般1期にマークしなさい。

④ 教科・科目欄

国語にマークしなさい。

4. **I** **II** は必答。**III** **IV** については、これより一題選択して解答すること。
5. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、**10** と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解答番号	解答欄									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

6. 問題用紙は、試験終了後持ち帰ること。

全員必答 必ず解答すること。

I 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

この部分の文章は、著作権法上の問題により、公表できません。

この部分の文章は、著作権法上の問題により、公表できません。

この部分の文章は、著作権法上の問題により、公表できません。

(浜田寿美男『私』とは何か)による)

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

(ア) ロ|コツ

- ① 悪事がロ|ケンする
- ② ロ|ジウラの散歩道
- ③ ダン|ロであたたまる
- ④ 明治期のロ|マン主義文学

(イ) トウ|ジヨウ

- ① 雑誌にトウ|コウする
- ② 建物がトウ|カイする
- ③ ザツ|トウに紛れる
- ④ 生徒がトウ|コウする

(ウ) ヨウ|セイ

- ① ナイ|ヨウを調査する
- ② 文章をヨウ|ヤクする
- ③ 災害にヨウ|ジンする
- ④ トウ|ヨウの文化を保つ

(エ) タン|テキ

- ① タン|ケン隊に加わる
- ② カン|タンな問題を解く
- ③ 偉人のセイ|タンの地を訪れる
- ④ キョク|タンなことを言う

(オ) ゲンシヨウ

5

- ① ショウカ器官を悪くする
- ② 大勢でガツシヨウする
- ③ チュウシヨウ的な話をする
- ④ ショウゾウ画を描く

問2 傍線部A「『私』は他者との関係から独立した実体的な存在ではありえない」とあるが、どのようなことか。その説明と

して最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **6**。

- ① 「私」とは他者と関わらずに単独でこの世に成立する存在ではないということ。
- ② 「私」とは他者と出会って初めて単独であることに気づく存在だということ。
- ③ 「私」とは外界や他者に働きかけることで自己の意味を見出す存在だということ。
- ④ 「私」とは常に他者に働きかけなくては生存できない依存性の高い存在だということ。

問3 傍線部B「この私を『自我』として固定したとき、その関係のニュアンスは断たれる」とあるが、なぜそのように言える

のか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **7**。

- ① 私を「自我」として固定することはかたくなに自己を堅持することだから。
- ② 私を「自我」として固定することは他者との関係も固定してしまうことだから。
- ③ 私を「自我」として固定することはまず他者から自己を切り離すことだから。
- ④ 私を「自我」として固定することは他者との自由な対話を損なうことだから。

問4 空欄X・Yに入れる語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **8**。

- ① X 身体——Y 〈能動〉
- ② X 〈見る〉——Y 現実
- ③ X 実体——Y 〈受動〉
- ④ X 〈見られる〉——Y 関係

問5 傍線部C「私たちが内側から生きている『私』においては〈能動〉よりもしろ〈受動〉が前面に意識されることの方が多い」とあるが、そのことを具体的に示すものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **9**。

- ① なにかをやっているそのときの自分の顔は自分には見えない。
- ② なにかをなすとげて失敗したときの他人の評価が気にかかる。
- ③ どんなときでも他人からどう評価されるか気にしないではいられない。
- ④ 一人で楽しむよりも相手を楽しませて相手の羞恥心を取りはらう。

問6 本文の内容に合致しないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **10**。

- ① 他者との関係を抜きにして自己の存在を考えることは適切でない。
- ② 自我に基づいて他者と関係することでは「私」は生まれない。
- ③ 他者は心の内でも意識されるもので外から見えるかたちで存在するとはかぎらない。
- ④ 他者との関係から生まれた「私」は一人のときでも他者との関係性から逃れられない。

全員必答 必ず解答すること。

Ⅱ 次の文章は、古井由吉の小説「やすらいの花」の一節である。主人公の神屋は妻子とマンションに暮らしてきたが、老父を引き取り、ともに暮らすようになっていく。これを読んで、後の問い（問1～5）に答えよ。

この部分の文章は、著作権法上の問題により、公表できません。

この部分の文章は、著作権法上の問題により、公表できません。

この部分の文章は、著作権法上の問題により、公表できません。

問1 傍線部(ア)～(ウ)の語句の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

(ア) ならわしもの

11

- ① 訓練で慣らすもの
- ② 習慣にしたがうもの
- ③ 役目をこなうもの
- ④ 癖がつきやすいもの

(イ) 怪訝の念

12

- ① 怪しくて怖いと思う気持ち
- ② 不安で落ち着かない気持ち
- ③ 不思議で納得のいかない気持ち
- ④ むずかしさに迷う気持ち

(ウ) 空耳

13

- ① 聞きちがいをすること
- ② 聞こえなかったふりをする
- ③ 聞きそこなうこと
- ④ まったく何も聞こえないこと

問2 傍線部A「これがいつまで持つものかとおそれました」とあるが、このとき主人公はどのようなことを「おそれました」のか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **14**。

- ① 病後の老父の体がこの先いつそう弱っていくのではないかということ。
- ② 老父を見守ることに自分が耐えられなくなっていくのではないかということ。
- ③ 老父の介護を優先するあまり職を失ってしまうのではないかということ。
- ④ 老父の介護になれてぞんざいに扱うようになってしまっているのではないかということ。

問3 傍線部B「神屋は父親の真剣らしい思案の顔を横からのぞきこんで疑った」とあるが、このときの神屋はどのようなことを「疑った」のか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **15**。

- ① 家族が寝静まると老いた父親は家の中でも行き先に迷うのではないかということ。
- ② 自分がいないときに老いた父親はさびしい思いをしているのではないかということ。
- ③ 老いた父親が夜ふけに何をしているのか家の者は知らないのではないかということ。
- ④ 老いた父親に対して自分は何の役にも立ってはいないのではないかということ。

問4 傍線部C「さて、寝てるのやら、覚めているのやら、こうして寝覚めするところでは、眠っているのだろう、と父親は答える」とあるが、ここには父親のどのような心境が表現されているか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **16**。

- ① 眠っているのか覚めているのか自分自身わからない自分を不安に思う心境。
- ② 長くなった話がようやく尽きてけだるさだけがのこるやりきれない心境。
- ③ ついぞ話し込んだことのない息子と語り合っただこかしら落ち着かない心境。
- ④ 老いた自分の現状を自らの生そのものとしてありのままに受け入れている心境。

問5

傍線部D「父親に安易に相槌を打つのも危いように思われた」とあるが、なぜ「危いように思われた」のか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 父親の言葉には現実的な根拠がなく相槌を打つことが父親に嘘をつかせてしまうことになりかねないから。
- ② 病気のせいで父親はいろいろ訴えるが、その訴えに相槌を打つことがことによっては父親の病気を悪化させかねないから。
- ③ 現実へのつながりが脆くなっている父親の言葉に相槌を打つことが父親を現実から引き離すことになりかねないから。
- ④ 水の音が耳につくという父親の言葉は水を使い合う集合住宅では近隣とトラブルを招く言葉にもなりかねないから。

選択問題 Ⅲ・Ⅳのうち、いずれか一題を選んで解答すること。

Ⅲ 次の文章を読んで、後の問い（問1～5）に答えよ。

この部分の文章は、著作権法上の問題により、公表できません。

この部分の文章は、著作権法上の問題により、公表できません。

問1 文中の空欄 X ～ Z に当てはまる語として最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから一つ選べ。

解答番号は 18 ～ 20。

Z	Y	X
20	19	18
① 想像	① 異口同音	① 直喩法
② 認識	② 以心伝心	② 隱喩法
③ 見識	③ 隔靴搔痒	③ 換喩法
④ 創造	④ 千変万化	④ 誇張法

問2 傍線部ア～エを品詞に分けた場合、分け方として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 21。

- ① ア 用いら／れる
- ② イ あらわ／れる
- ③ ウ 思わ／れる
- ④ エ 委ねら／れる

問3 傍線部A「アイランド・フォームは短篇文化を生む」とあるが、その根拠となる文化の性格として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 22。

- ① あまりにくだい表現は相手を信頼していないとされる文化
- ② 俳句・短歌という形式が詩的表現の中心であった文化
- ③ 相手の理解を必ずしも必要としないで交流する文化
- ④ 作品の量の大小について必ずしも関心を持たない文化

問4 傍線部B「アイランド・フォームから遠い言語」とあるが、それと最も関わりの深いものを、次の①～④のうちから

一つ選べ。解答番号は **23**。

- ① 相手への不信
- ② 家庭内の会話
- ③ 見えない論理
- ④ 彫刻的原理

問5 本文の筆者の主張に合致するものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **24**。

- ① 日本語における論理は沈黙への傾斜という相手への不審に立脚している
- ② 西洋の言語の論理は、正確に伝達できるという点で日本語より優れている
- ③ 言語におけるアイランド・フォームは相手への配慮の欠如に基づいている
- ④ 日本文化のアイランド・フォームは、俳句・短歌・日本画などの発達をもたらした

選択問題 Ⅲ・Ⅳのうち、いずれか一題を選んで解答すること。

Ⅳ 次の文章は、筆者が少女時代を過ごした父の任国である上総（現・千葉県）から数年ぶりに都の自宅に戻って間もない頃の様子を描いている。これを読んで、後の問い（問1～5）に答えよ。

ひろびろとあれたる所の、過ぎ来つる山々にも劣らず、大きにおそろしげなるみやま木どものやうにて、都のうちとも見えぬ所のさまなり。^(注1)ありもつかず、いみじうものさわがしけれども、^A「物語もとめて見せよ、物語もとめて見せよ」と、母をせむれば、三条の宮に、親族なる人の、^(注2)衛門の命婦とてさぶらひける、尋ねて、文やりたれば、めづらしがりてよろこびて、御前のおろしたるとて、わざとめでたき冊子ども、^B硯の箱のふたに入れておこせたり。うれしくいみじくて、夜昼これを見るよりうちははじめ、またまた見まほしきに、^Bありもつかぬ都のほとりに、誰かは物語もとめ見する人の^(注3)あらむ。

^(注4)継母なりし人は、宮仕へせしが下りしなれば、思ひしにあらぬことどもなどありて、世の中うらめしげにて、外にわたるとて五つばかりなるちごどもなどして、「あはれなりつる心のほどなむ、忘れむ世あるまじき」などいひて、梅の木、^(注5)つま近くて、いと大きなるを、「これが花の咲かむをりは来むよ」といひおきてわたりぬるを、心のうちに恋しくあはれなりと思ひつつ、しのびねをのみ泣きて、その年もかへりぬ。いつしか、梅咲かなむ。来むとありしを、さやあると、目をかけて待ちわたるに、花もみな咲きぬれど、音もせず。^C思ひわびて花を折りてやる。

^D頼めしをなほや待つべき霜枯れし梅をも春はわすれざりけり
といひやりたれば、あはれなることども書きて、
^Eなほ頼め梅のたち枝は契りおかぬ思ひのほかの人も訪ふなり

〔「更級日記」による〕

(注) 1 ありもつかず——まだ落ち着かず。

2 衛門の命婦——女性の呼称。

3 継母なりし人——継母であった人。筆者の実母ではなく父が任国に同伴した女性。

4 思ひしにあらぬこと——期待はずれのこと。

5 つま——軒端。

問1 傍線部A「いつしか」とあるが、その言葉にこめられた気持ちの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから

一つ選べ。解答番号は **25**。

① 過ぎ去った時の流れに驚く気持ち。

② 時刻を決めかねる漠然とした気持ち。

③ その時が来ることを強く期待する気持ち。

④ 時間が過ぎるのをいらだたく思う気持ち。

問2 傍線部B「誰かは物語もとめ見する人のあらむ」とあるが、その現代語訳として最も適当なものを、次の①～④のうち

から一つ選べ。解答番号は **26**。

① 誰かは物語をさがし求めている私と物語を見せあう人がいるだろう。

② 物語をさがし求めていれば誰か私に物語を見せてくれる人がいるだろう。

③ 物語をさがし求めている私に物語を見せてくれる人が誰かいないだろうか。

④ 誰か物語をさがし求めて私に見せてくれる人がいるだろうか、いないだろう。

問3 傍線部C「思ひわびて花を折りてやる」とあるが、どのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④

のうちから一つ選べ。解答番号は **27**。

① 約束したが、来ない人に、待ちきれなくなって梅の花を添えて歌を贈ったということ。

② 約束したが、来ない人に、抗議の気持ちをこめて梅の枝を折って送り返したということ。

③ 約束したが、来ない人の、安否を気づかい、梅の花を贈って様子をうかがったということ。

④ 約束したが、来ない人に、腹が立ってしまい、梅の花を折ってしまったということ。

問4 傍線部Dと傍線部Eの「頼め」の文法的な違いの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答

番号は **28**。

① Dは四段動詞の連用形であるが、Eは下二段動詞の命令形である。

② Dは下二段動詞の連用形であるが、Eは四段動詞の命令形である。

③ Dは四段動詞の命令形であるが、Eは下二段動詞の命令形である。

④ Dは下二段動詞の命令形であるが、Eは四段動詞の命令形である。

問5

『更級日記』は平安時代に成立した女性が筆者の日記であるが、平安時代に成立した女性が筆者である日記で最も成立年代の古いものは何か。次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **29**。

① 土佐日記

② 蜻蛉日記

③ 紫式部日記

④ 和泉式部日記

